



高槻ロータリークラブ
2023~2024
WEEKLY BULLETIN

四つのテスト

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるかどうか

事務所 〒569-1116 高槻市白梅町 4-1 高槻阪急スクエア 6階
TEL 072-683-1158 FAX 072-683-1174
URL <http://www.takatsukirc.org/>
E-mail takatsuki.rc@bird.ocn.ne.jp

例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
例会場 高槻阪急スクエア 6階多目的ホール TEL 072-684-5379

創立 1954年6月15日

会長 河合一人 幹事 松下浩章 クラブ運営委員長 内本繁 会報担当副委員長 小阪大輔

No.33 2024年4月3日 発行

4月は環境月間

第3356回 本日(4/3)の例会

- ◎ 国歌・・・君が代
- ◎ ソング・・・奉仕の理想
- ◎ 誕生、結婚、入会記念月御祝
- ◎ 創業記念月御祝
- ◎ 卓話 浜田 厚男君
「太陽光パネル リユース&リサイクル」
- ◎ 例会後の行事
4月度定例理事会

第3357回 次週(4/10)の例会

- ◎ ソング・・・四つのテスト
- ◎ 外部卓話 SMBC日興証券株式会社 高槻支店
支店長 富川 大輔様
「新・NISAの解説」
- ◎ 例会後の行事
第5回被選理事会

先週(3/27)の例会から

◎ゲスト・ビジター 計0名

◎出席報告

会員数	出席者数	出席率
44名	23名	57.50%
前々回例会補正後出席率		88.64%
但し、Mup 5名 欠席者 5名		
出席規定適用免除有資格者		0名

4月度 記念月御祝

- ◎誕生記念
内本 繁君 拝郷 淳弘君
大木 城司君
- ◎結婚記念
山口 誠・紀代子御夫妻 56周年
橋本 憲治・佳世 御夫妻 26周年
江澤 由・千恵 御夫妻 22周年
- ◎入会記念
清水 利男君 33周年
浜田 厚男君 20周年
石田 佳弘君 13周年
堀部 直子君 1周年
小西 知之君 1周年

創業記念月御祝

- 小阪 大輔君 (株)小阪工務店
T. 4. 4. 4 109周年
- 岩村 真二君 (株)トリーカ
S. 36. 4. 19 63周年
- 飯田 哲久君 (株)ポロ
S. 55. 4. 1 44周年
- 浜田 哲也君 日本たばこ産業(株)
医薬総合研究所
S. 60. 4. 1 39周年
- 清水 利男君 大阪経営
イノベーションオフィス
H. 20. 4. 1 16周年

世界に希望を生み出そう

ゴードンR. マッキナリー RI会長

◎会長の時間

1年・365日の内で、長くても10日程度しか見られない「桜」ですが、春が近づくとニュースでは、連日の様に開花予想が放映され、歌番組では桜をテーマにした歌が流れます。また、街中では桜をモチーフにしたアクセサリや食べ物等が溢れ、多くの人達が花見に訪れたりします。

さて、日本人と桜の関係についてですが、これは何も近年始まったものではありません。歴史的には、紀元前から既に始まっています。

日本列島で稲作が開始され、初めて国家が形成されたのは、紀元前300年から紀元後250年の間ですが、この時代を弥生時代と呼んでいます。

実はこの弥生時代では、桜は「穀物の神が宿る樹木」として祀られていました。その理由は、桜の開花時期が気温と密接に関係している事から暖かくなると蕾（つぼみ）を持ち始めます。そして、桜が満開になる時期を基準にして、稲作開始の準備をする。一方、夏の緑の葉が生い茂り、蟬時雨の時期を目安に収穫の準備をしていました。また、桜の咲き具合で稲作の豊凶を占う習慣もこの弥生時代に生まれたとされています。

ところで今日は、観桜会を兼ねた移動例会ですが、日本で初めて花見が行われたのは平安時代です。平安時代は、それまで中国の大陸文化を積極的に取り入れていた奈良時代とは異なり、日本の文化を重視する風潮が生まれています。これがきっかけとなり、古来から祀られてきた桜の人氣が高まります。そして、当時の醍醐天皇が花見を開いたのをきっかけに天皇が主催する年中行事になっています。その後天皇だけではなく、貴族間でも花見が行われるようになり、これが現在の花見の起源だと言われています。

一方で、花見と言えば「ブルーシートを敷き、食べ物やお酒を持ち寄る宴会」こう言ったイメージがありますが、宴会をしながら桜を愛でる習慣になったのは「鎌倉時代」です。鎌倉時代では武士の間でも花見が行われる様になり、彼らが住んでいる地域では、専ら桜の木の下で「宴会するスタイル」へと変化し、定着していきます。武士が開催した花見はとても盛大で、中でも豊臣秀吉が行った「吉野の花見」や「醍醐の花見」は、桜の本数、参加した人数も桁違いの規模でした。秀吉の花見は何日間も続き、この間・毎日の様に茶会や歌会、能会等が開かれたと伝わっています。但し、この時期までは、どちらかと言えば上流階級の人達が花見を楽しんでいました。

時は流れて、江戸時代になると、庶民の間でも盛んに花見を楽しむ様になります。その理由には諸説ありますが、江戸時代が平和な世の中であったのと、災害防止策として川沿いに桜が植えられた事が、庶民にも花見が広がった大きな理由です。現在も東京に流れている隅田川は、当時、大雨が降ると氾濫が起りやすい状態でした。技術的な問題から、隅田川全域に堤防を作る事が不可能であった為、堤防の代わりとして、川沿いには桜が植えられました。その結果、桜を楽しむ場所が増え、花見の習慣が庶民の間にも、定着して行ったと言う訳です。

◎幹事報告

・本日はございません。

◎委員会報告

・本日はございません。

◎例会前の行事

・お花見

【場所】南禅寺

【時間】15:00～

【参加者】合計12名（会員10名・ご家族2名）



◎例会後の行事

・親睦会

【場所】美濃吉本店 竹茂楼

【時間】17時～

【参加者】合計26名（会員23名・ご家族3名）

